

12年目の『鉄路展』も、二週間の会期の後半に入りました。

いつもなら9月に入ると一気に涼しくなり、夜には肌寒ささえ感じることもある小樽。しかし今年は残暑がなかなか抜けないどころか台風の影響で雨風もあるなど、ちょっといつもとは違う感じの晩夏の日々です。

『鉄路展』は野外での展示のため、出展者はそれぞれに対策を施していますが、それでも展示そのものは二週間の間、風に吹かれ、そして時には雨に打たれ、いつしかこの空間になじんでいきます。山から／海からの風が出会い、夏と秋の風が交わる。街中にありながら少し奥まった、普段はとところどころ生活道路のようになっている以外は草に埋もれ眠る空間。ここに年に一度"帰ってくる"ことを、僕自身とても楽しみにしています。

朝・昼・夜・真夜中…この場所に何度も訪れることが好きです。二週間、24時間開放されている『鉄路展』。来ていただいた時間がベストな時間だと胸を張って言えるのではありますが、もし可能ならば、違った時間にもう一度訪ねていただくと、作品を、そしてこの空間そのものをまた違った視点から楽しめると思えます。僕が一番好きなのは、夕暮れから夜へ、そして真夜中から朝へと空の色が変わっていく時間帯(札幌からバイクを走らせてここまで来ます)。刻一刻と会場の雰囲気が変わっていく瞬間は、まさに野外展ならではの。

そうです、この空間には屋根もなければ壁もありません(今号で掲載しているテーマ展「小樽」は倉庫の壁をお借りしています)。一から展示をつくるからこそ、写真のチカラがダイレクトに伝わる。そして、いわばキャラクターの強い空間だからこそ、それに負けれないといつも思います。

131年の歴史を重ねた、北海道最古の廃線跡。ここに立つと、うれしくなると共に、背筋が伸びるのを感じます。そして何より、大好きな小樽の街中でこうして夏の終わりの時間と空間を皆さんと共有できることを誇りに思います。

いま撮っておきたい、未来の小樽に伝えたい光景が、まだまだたくさんあります。この空間に並ぶ写真から、地元の方も旅人の方も、"小樽っていいな"と感じていただければ、これに過ぎる喜びはありません。これからも僕は小樽で写真を撮り続けていきます。そしてこの空間に写真を携えてまた帰ってきたいと思えます。

『tetsurocafe』は、瓜生 裕樹の『小樽・鉄路・写真展』の”お持ち帰りいただける作品”です。

8年目の今年は、第1週と第2週、計2号を発行しました。

『鉄路展』に足をお運びくださり、そして、僕の作品に足を止めてくださり、ありがとうございます。また来年も、夏の終わりのこの鉄路でお会いしましょう!

お知らせ

10月27日(木)から30日(日)まで、運河プラザ(この会場の近くです)にて、グループ展『フィルム一本勝負@フィルムの街 小樽』に出展いたします。ぜひ足をお運びください!

Webでもお読みいただけます www.yuukiuryu.com/otaru2011/

僕の作品、そしてこのフリーペーパーへのご感想・メッセージを、本誌と同じ箱の中の感想ノート、または下記のメール・Twitterに、ぜひお寄せください。

tetsurocafe2011 vol.2 2011年9月5日発行

発行者 瓜生 裕樹 ウリュウ ユウキ

www.yuukiuryu.com hello@yuukiuryu.com

Twitter @yuukiuryu

© Yuuki URYU 2011 All rights reserved.

小樽

tetsurocafe

2011

Yuuki URYU's Extra Free Paper
for "2011 Otaru Tetsuro Shashinten"

2

Take it FREE!

ご自由にお持ち帰りください